

通貨ニュース(2015年1月28日)

シンガポール: MAS 通貨政策変更

- ・シンガポール金融管理局(MAS)は本日臨時で通貨政策見直しを行い、「実効レートの緩やかなシンガポールドル高誘導」を継続するものの、その誘導ペースを減速すると発表。政策バンドの幅、中心値については変更なし。
- ・通貨政策の変更はシンガポールドル高誘導ペースを2012年4月に加速して以来約3年ぶり。シンガポールドル高誘導ペースの減速自体はある程度予想されていたが、通貨政策は通常4月と10月に行われる定例の見直しで変更されるため、タイミング的には予想外であった。我々はMASがFRBによる利上げの影響を見極めた上で、恐らく今年10月に変更するだろうと予想していた。
- ・MASは臨時の変更の理由を、昨年10月以降の環境の変化を受けて2015年のインフレ見通しに重大な修正があったためと説明している。MASは世界経済減速によるシンガポール景気下振れリスクと、国内の労働市場逼迫によるインフレ圧力というジレンマに直面していたが、最近の原油価格の急落により国内のコストプッシュ要因から来るインフレ圧力が緩和されたことで、シンガポールドル高誘導ペースを減速し予防的に金融引締めの度合いを緩める余地が生じたということであろう。
- ・MASは2015年の成長見通しを昨年10月における+2.0~4.0%に据え置いた一方で、インフレ(総合消費者物価指数)見通しは前回の+0.5~1.5%から▲0.5~+0.5%へ引き下げた。(同インフレ見通しは原油価格(WTI)が40~70ドルで推移するとの予想に基づいたものである。)
- ・MASの通貨政策変更は予想外であったため、発表直後にシンガポールドルは対ドルで1.34近辺から1.35台後半まで急落している。

シンガポール資金部
鈴木 教子
+65 6416-0517
clara.suzuki@mizuho-cb.com

(日本での問い合わせ先)

国際為替部
マーケット・エコノミスト
深谷 公勝
03-3242-7065
masakatsu.fukaya@mizuho-bk.co.jp